

## デッサン、始めの一步

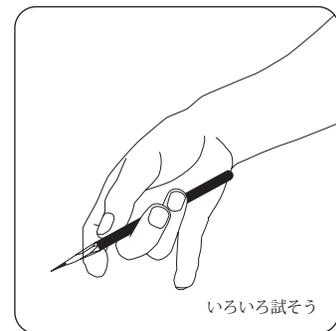
### ①鉛筆について

- ・鉛筆は、信頼のおけるメーカーのものを選ぼう。
- ・柔らかめのB系列と固めのH系列を、バランスよく揃える。  
→6B～4Hまで揃えれば、通常のデッサンに対応。4B～2Hくらいを多用するので、本数が多いと便利。
- ・鉛筆はカッターナイフで削る。  
→通常、文字を書く時より長めに芯を出すことが多い。  
→鉛筆の硬さや、個人の筆圧、また用途によって芯の削り方を変えよう。  
→鉛筆の芯は、常に使いやすい状態に保ち、まめに削ること。  
→短い鉛筆の使用は避けるか、ホルダーをつけて使用する。

\*鉛筆についているH、B、Fといった記号は、芯の濃さと硬さを表すもの。HはHARD、BはBLACKの略字で、Hの数字が多いほど薄く硬い芯を示し、反対にBの数字が多いほど濃く柔らかい芯を示します。FはFIRM（ファーム：しっかりした）という意味で、HとHBの中間の濃さと硬さを持った芯のことです。

### ②鉛筆の持ち方

- ・決まりがあるわけではないが、筆圧と角度に変化を持たせ、多様な描き分けをするために持ち方を工夫してみよう。
- ・指先だけでなく、肩や肘、手首などを上手に使い、ゆったりと大きな線を描く。（形をとる、柔らかい調子をつける）
- ・細部は鉛筆の芯を鋭く保ち、紙を痛めすぎないように注意を払いながら描く。（形を決める、細部を描く）
- ・直線・曲線・強い線・柔らかい線などを描き分け、美しく線を束ねて描けるように練習しよう。

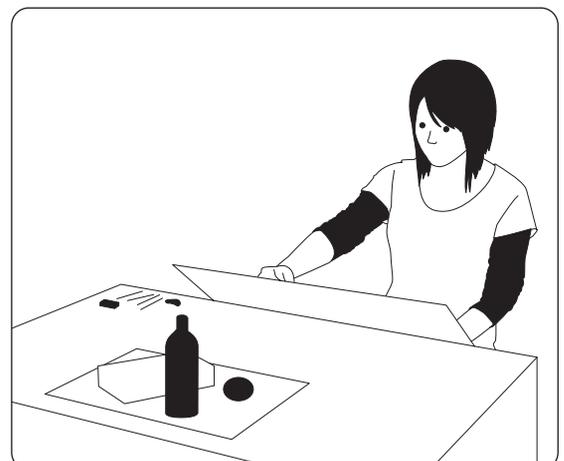


### ③消し具、その他の道具

- ・鉛筆同様、信頼のおけるメーカーのものを選ぶこと。
- ・プラスチック消しゴムと練り消しゴムを使い分ける。  
→消しゴムは、消す道具というより、「描く道具」と意識してみよう。
- ・完成した作品は、フィクサチフ（定着液）で定着させる。
- ・クロッキー帳、羽箒、定規、スケールなど、必要に応じて揃えよう（ただし、入試などでは使用が制限されることがある）。

### ④卓上デッサンの準備

- ・モチーフと画面を無理なく自然に見ることができるベストな位置を探し、姿勢を正して座る。  
→描き始めたら、特に頭の位置が動かないように注意する。
- ・机は整理し、利き手側に道具をまとめるなど工夫しよう。
- ・画用紙をカルトンに留める際、斜めにならないように注意する。



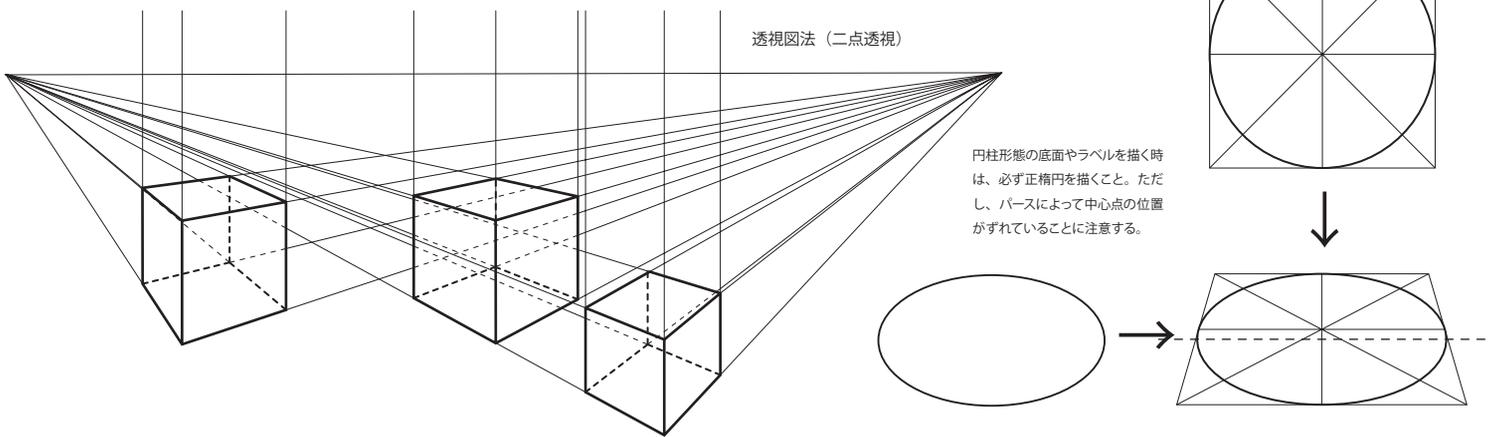


## ⑤構図

- 与えられた画面の中に、モチーフをバランスよく配置する。
  - 「余白」も画面の重要な構成要素と考えよう。
  - 日常的に絵画やポスターなどをよく観察し、美しいレイアウト（構図）を探してみよう。

## ⑥形

- コンピューターの様に一発で描ける人間はいない。中心線や垂直、水平線を補助線にしなが、丹念に正確な形を探そう。
  - 描き始めは、特に細部にとらわれすぎず全体のバランスをよく見ること。
  - 描き進んでからも、絶えず全体のバランスに注意を払う。
- パースペクティブ（遠近法、透視図）に注意を払う。

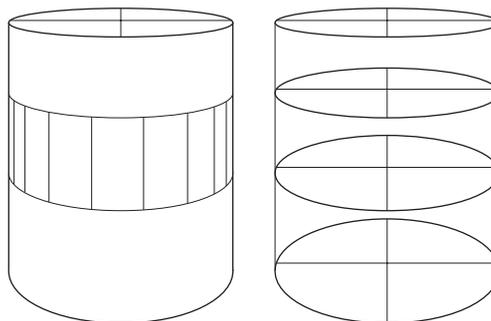


- 部分にとらわれず、全体の中でのバランスを見る。
  - すべてのモチーフが、同一空間に存在するという印象を損なわないこと。
  - 個々のモチーフの正確な形を探しつつ、構図のバランスを崩さない配慮が必要。

## ⑦調子（陰影、量感、空間）

- 表面的な現象（細かい凹凸や模様など）にとらわれすぎずに、量感（重さや体積）を感じとること。
- 余白も含め、1つの空間を描いているという意識で調子をつける。

目線との関係で、円柱の断面の見え方が変わることにも注意しよう。



## ⑧質感

- 素材の持っている質感を描き分ける。
  - 描き始めから表面の質感だけを追いかけすぎない。
  - 構図、形、調子などが、それぞれバランスよく描けていなければ、質感は得にくい。
  - 鉛筆の種類や筆圧、描く速度、角度などに変化をつけ、多くの質感を描き分けられるように練習しよう。

